

目標 3

すべての人に健康と福祉を

GOOD HEALTH AND WELL-BEING

3 すべての人に
健康と福祉を



●この目標(Goal)の解説

目標3では、あらゆる世代のすべての人が健康であり、福祉を受けられることを目指しています。その目標は、特定の疾病・健康問題に止まらず様々な項目に渡り、全方位から健康を保とうとしています。



具体的な項目は、「妊産婦・新生児の死亡率」、「伝染病・感染症」、「生活習慣病による死亡率」、「薬物・アルコール」、「事故」、「性・生殖」、「汚染による疾病」といったものがあります。これらにより命を落とす人をどれだけ少なくできるか、また保健サービスをどれだけ広く利用できるようにするかが指標となっています。

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)」という全ての人々に対してお金の心配なく必要な保健医療サービスを受ける体制を作ることも目指しています。これは途上国で質の高い基礎的な保健サービスや安価で良質なワクチンを届けることだけでなく、我々大学生協でのたすけあいによる学生総合共済も、すべての学生がお金の心配なく保健サービスを受けられる仕組みといえます。

また、海外では「シンデミック（地球規模での疾病と社会的要因の相乗効果）」という途上国での生活習慣病の悪化が環境汚染や食糧構造の偏りによって引き起こされているという課題があります。全ての人に健康と福祉を届けるためには、様々な視点から起こりうる影響を考え、原因となるような構造的な要因にもアプローチして行く必要性が訴えられています。

●大学生協での実践事例



北見工業大学生協

新型コロナウイルス感染症に対応した食堂営業

学長・副学長も参加する大学危機管理委員会に感染拡大早期の段階からコンタクトをとり、体育館での教科書販売を行いました。また、自宅待機期間の食堂閉店を求められましたが、95%を占める自宅外生からの生の声を伝え、理事長と一緒に大学に相談しています。大学と連名でのコロナ対応ポスター等も作成しました。コロナ禍の営業でも、食堂利用の8割程度がカバーできるような営業計画を立てて営業を継続することができました。



福岡県立大学生協

健康フェスタ

福岡県庁や福岡県警、地域の病院のほか、心理コース・看護学部の教員の方々、大学の保健室と協力し、専門的な内容を盛り込んで、組合員が自身の健康に目を向けられる取り組みです。きっかけとしては、看護学科の先生のつながりで病院の方と協力できるようになり、学生委員会だけではできない取り組みを行えました。組合員同士や地域のつながりを活かすことで、より多くの組合員が健康について考えることができていました。



●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！